

献 辞

法学部教授、日本学士院会員、西原寛一先生の突然の訃報を耳にしたのは、昭和五一年二月二九日早朝でした。その折の、おどろきと悲しみの深さは、今も脳裡に焼きついています。嗚呼。

先生は、明治三二年八月二日のお生れで、東京帝国大学法学部卒業後、京城帝国大学、大阪市立大学、関西学院大学などの各教授を歴任後、昭和四三年四月、本学へ就任されました。当時は、本学部開設の翌年で、草創の頃のこととて、学部充実のため、率先して大学評議員として活躍されるなど、筆舌に尽せぬご苦勞を煩らわしたことでした。今日、本学部が錚錚の陣容を整えて驚異的な發展を見ることができたのは、偏えに先生のご尽力の賜物であり、そのご恩顧の深さを忘れることはできません。

先生は、商法学の基本的問題を説明することに意を注がれ、「企業に関する法」がすなわち、商法であることを実証し、更にすすんで商法を徹底した企業関係法として体系化することを試みて、その構造体系を完成された泰斗であります。先生が商法学界に樹立されたこの金字塔は、燦として永遠に輝き続けることでありましょう。

先生とその最後の職場を共にすることができたわれわれは、先生の榮譽を讃え、もって顕彰の微意を表わすべくここに追悼論文集を刊行して、先生のご靈前に捧呈する次第です。在りし日の先生の温容を偲びながら、ご冥福をお祈りするとともに、今後、一層の精進をお誓いして追悼の粗辞といたします。

昭和五二年四月二〇日

法学部長 倉田 彪 士